

事業名称	京都ミュージアム連携による博物館収蔵資料デジタルアーカイブ推進共同事業（京都府立丹後郷土資料館）		
実行委員会	KYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会		
中核館	京都府立丹後郷土資料館		
	住所	〒629-2234 京都府宮津市国分6 1 1-1 小字天王山 611-1 （※令和7年1月からリニューアル工事に伴い執務室移転 宮津市字吉原 2586-2（京都府宮津総合庁舎内））	
	TEL	0772-27-0230（※令和7年1月から執務室移転 0772-22-2333）	FAX 0772-27-0020（※令和7年1月から執務室移転 0772-22-2344）
	ホームページ	<a href="https://www.kyoto-be.ne.jp/tango-m/cms/">https://www.kyoto-be.ne.jp/tango-m/cms/</a>	
構成団体	京都府ミュージアムフォーラム加盟館 （令和8年3月現在、府内の博物館 69 館からなる連携組織）		
事業開始時点の課題分析	<p>京都府内の多くの小規模ミュージアムは、人員・予算・機材の不足によりデジタルアーカイブ化に着手できず、収蔵資料の画像データや目録整備が進んでいない。</p> <p>加えて、府は博物館法に基づく登録博物館・指定施設が少ないため、国の各種補助事業の施設要件を満たせず、意欲があるが申請ができない施設が多くある。</p> <p>また、中核館の位置する丹後地域では丹後震災100年を控え、防災・教育利用のためのデジタル資料整備の必要性が高まっていた。これらの背景から、以下の方向性をもつ取り組みが必要であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の小規模館が「ゼロから取り組むことができる」簡易・標準化されたデジタル化手法の整備・人材育成</li> <li>● 中核館及び府が小規模館を支え、協働する広域連携モデルの構築</li> <li>● 博物館法に基づく登録・指定申請の共同実施など施設の基盤整備</li> <li>● 博物館資料を広く公開するための全国プラットフォームとの接続</li> <li>● 震災資料を含む地域文化財を未来につなぐためのデジタル保存・活用の検討</li> </ul>		
事業目的	<p>本事業の目的は、以下の2点。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意義は感じつつも単館では取り組むことが難しいミュージアムのデジタルアーカイブ業務について、中核館を中心に府内の小規模ミュージアムが連携して「一館でも多く、一点でも多く」の資料を国のプラットフォーム（文化遺産オンライン）で公開、地域文化の未来を支える基盤を整備すること。</li> <li>2. 有識者やエンジニア、事業者といったDXに知見を有する外部人材とともに、ノウハウ共有・人材育成を行いつつ、デジタル化を推進することで、府域で持続可能なミュージアムDXの体制構築を行うこと。</li> </ol>		
事業概要	<p>以下の11施設において、収蔵資料のデジタルアーカイブ（各50点以上のデジタル化、文化遺産オンラインをつなぎ役としたジャパンサーチへの公開）を行うとともに、デジタル化に伴う人材育成事業として、震災資料の活用を見据えた研修（実証実験）と持続可能なDX体制構築に向けた演習（調査研究）を行った。</p> <p>なお、中核館を除いた10施設は本事業を契機として、博物館法に基づく登録博物館・指定施設の申請を実施した。</p>		

	<p>&lt;デジタル化を実施した 11 施設&gt;</p> <p>① 京丹後市立郷土資料館（〒629-3133 京都府京丹後市網野町郷 55 番地）</p> <p>② 京丹後市立丹後古代の里資料館（〒627-0228 京都府京丹後市丹後町宮 108 番地）</p> <p>③ 京都府立丹後郷土資料館（〒629-2234 京都府宮津市字国分小字天王山 611-1）</p> <p>④ 与謝野町立江山文庫（〒629-2421 京都府与謝郡与謝野町字金屋 1682 番地）</p> <p>⑤ 与謝野町立古墳公園はにわ資料館（〒629-2411 京都府与謝郡与謝野町字明石 2341）</p> <p>⑥ 舞鶴市立赤れんが博物館（〒625-0036 京都府舞鶴市字浜 2011 番地）</p> <p>⑦ 舞鶴市郷土資料館（〒624-0853 京都府舞鶴市字南田辺 1）</p> <p>⑧ 京都府立堂本印象美術館（〒603-8355 京都府京都市北区平野上柳町 26-3）</p> <p>⑨ 向日市文化資料館（〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内 40-1）</p> <p>⑩ 大山崎町歴史資料館（〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町字大山崎小字竜光 3 番地）</p> <p>⑪ 亀岡市文化資料館（〒621-0815 京都府亀岡市古世町中内坪 1 番地）</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>1. 11 施設の収蔵資料デジタル化（委託：大日本印刷株式会社）</p> <p>（1） 現地調査（期間：2025 年 10 月 29 日～11 月 14 日）</p> <p>（2） 実地研修・資料撮影（期間：2025 年 12 月 9 日～2026 年 2 月 6 日）</p> <p>（3） 文化遺産オンライン登録研修（2025 年 12 月 18 日）</p> <p>（4） 各施設による文化遺産オンライン登録（期間：2026 年 1 月～2 月 27 日）</p> <p>（5） 全体研修（2026 年 2 月 9 日）</p> <p>（6） 小規模ミュージアムの DX 推進に関するレポート</p> <p>2. 人材育成事業</p> <p>（1） 震災資料のデジタル化及び活用の実証実験（有識者による研修）</p> <p>（2） 持続可能な DX 体制構築に向けた調査研究（委託：国立大学法人 静岡大学）</p>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>1. 資料デジタル化の成果</p> <p>府内 11 館で合計 756 点の資料をデジタル化し、628 点を文化遺産オンライン公開、これにより、保存・閲覧・研究・教育利用が進展した。</p> <p>2. 人材育成の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体研修参加者へのアンケートにおいて、50 名の参加者に対し 54%の 27 名が回答。約 89%の参加者が合同研修会について「非常に満足」「満足」と回答し、デジタルアーカイブへの理解度・取り組み意欲は 100%の参加者が「非常に高まった」「高まった」「やや高まった」と回答。</li> <li>・実地研修にて、テザーモードやフェザードライトの導入により撮影ミスの削減・作業時間を短縮しつつ、小規模館でも効率的な撮影が可能であることを学ぶことができた。</li> </ul> <p>3. 持続可能なデジタルアーカイブ体制構築の成果</p> <p>11 施設の課題やニーズを踏まえ、かつ、実地研修や撮影の様子・レイアウトを詳細に記した DX 推進体制に関するレポートを作成した。小規模館がデジタルアーカイブに取り組む際の参考資料として今後公開予定。</p> <p>4. 利活用の効果</p> <p>デジタル化研修により、学校教育（震災教育や地域学習）、研究会や市民講座への活用など多様な利活用について学ぶことができ、一部小学校での授業等まで行うことができた。</p>

◆課題

1. 人材・時間・予算の不足

- ① 専任学芸員が少ない館の状況から、今回は短期間で事業を実施することとなったため、結果として館側の負担が大きくなった。
- ② 実地研修では館の機材を用いて撮影を行う予定であったが、予想以上に館の機材が古く使用できないものも多く、事業者の機材を使用したことで、事業終了後の継続性が課題。
- ③ 各施設で機材調達を行うための予算獲得に向けたマニュアル整備までは至らなかった。

2. アーカイブ構築の負担

作品目録データ未整備館が多く、メタデータ作成・権利処理の負担が大きい。

3. 施設 KPI・標準ルールの欠如

画像管理のルールや各館のデジタル化 KPI が未確立であったため、一部混乱をきたした。府内施設の標準ルールのどこまで整備できるかが課題。

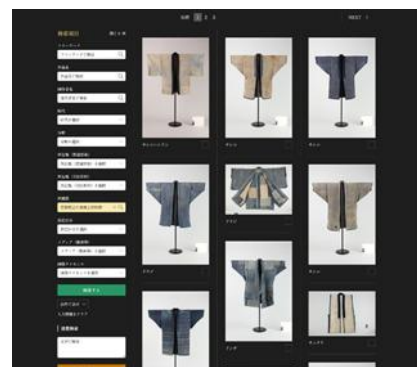
# 【京都連携デジタルアーカイブ事業の実績】

## ＜博物館資料のデジタル化＞

### 1 全11施設 合計756点の資料を撮影・デジタル化

	施設名	点数
(1)	京都府立丹後郷土資料館	113
(2)	大山崎町歴史資料館	62
(3)	向日市文化資料館	62
(4)	与謝野町立江山文庫	60
(5)	与謝野町立古墳公園はにわ資料館	51
(6)	舞鶴市立赤れんが博物館	75
(7)	舞鶴市郷土資料館	70
(8)	京都府立堂本印象美術館	70
(9)	亀岡市文化資料館	59
(10)	京丹後市立郷土資料館	68
(11)	京丹後市立丹後古代の里資料館	66
	合計	756

■今回デジタル化された資料（一部）



### 2 632点の収蔵資料をオンライン公開。

- ・文化遺産オンラインをつなぎ役としてジャパンサーチに公開
- ・府内博物館の貴重な資料を「いつでも」「どこでも」オンライン上で見ることができるように。

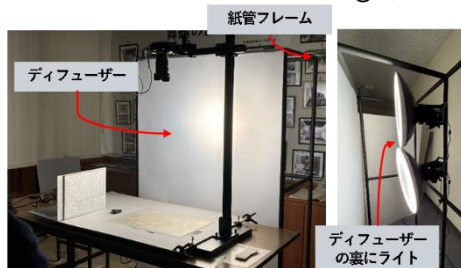
<https://bunika.nii.ac.jp/museums>

### 3 実地研修（講師＋各施設職員で実施）

（期間：2025年12月9日～2026年2月6日）

- ・1施設あたり、実地研修1.5日で実施
- ・各施設に簡易で多用途に利用できる撮影セットを持ち込み、座学による研修と、撮影実技研修を実施。
- ・撮影ミスを防ぎ、撮影時間を短縮する方法として、フェザーライトやテザーモード撮影を導入。

#### フェザーライト（Feathered Light）



#### テザーモード撮影



▲京都府立丹後郷土資料館



### 4 資料撮影（事業者が実施）

（期間：2025年12月9日～2026年2月6日）

- ・1施設あたり、撮影2日で実施
- ・50点以上の撮影を完遂するため、効率を最優先。点数確保後は、各施設の希望に合わせ高難易度の資料撮影を実施



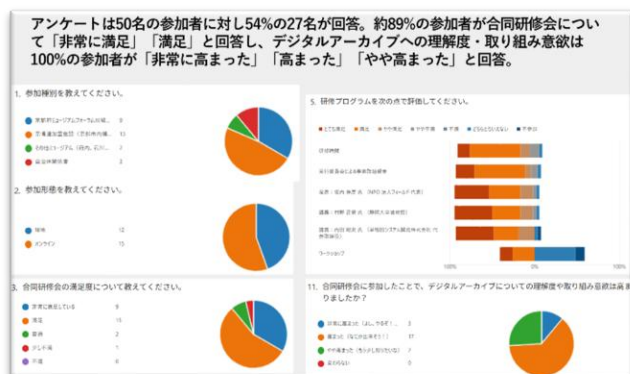
▲展示台を利用した撮影の様子

## 【参加施設の声】

- こういった機会がないと取り組まなかった。これからは楽しみです。
- わずかだが資料デジタル化が進み、これまで公開できていなかった資料の一部を公開できた。歴史資料については他の資料のリストを公開するきっかけになった。
- どのような環境を構築すればデジタルアーカイブに持続的に取り組めるか理解することができた。逆に言えば「これがないからできなかったのか・・・」という反省にもなった。

## 5 全体研修（参加者計 50 名（現地 27、Web23））

- 日時：令和 8 年 2 月 9 日（月）10:00～16:20
- 会場：京都府立京都学・歴彩館、Web
- ミュージアム関係者、市町村文化財担当者  
を対象に本事業取組発表と、DA に関わる  
講師による講義やワークショップを実施。



## <人材育成：震災資料のデジタル化及び活用>

### 1 丹後震災資料の3D撮影研修

実施日：令和 7 年 10 月 2 日（木）、10 月 3 日（金）

### 2 デジタルデータを活用した小学校での震災教育授業

実施日：令和 7 年 12 月 23 日

場所：峰山小学校



## <人材育成：持続可能な DX 体制の構築>

- デジタル撮影環境・機材・運用方法の最適化、人材育成、関係機関との連携体制を検証し、北部版「文化データセンター」構築に向けた基礎検討、撮影ワークショップを実施。

